

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス みらいねっときくち		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 13日		～ 2026年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 9家庭(兄弟姉妹等の利用家庭を含む)
○従業者評価実施期間	2026年 2月 10日		～ 2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	食育に力を入れている。	おやつはできるだけ事業所で作った手作りのおやつを用意し、また、休日などには定期的に調理実習やおやつ作りの活動を取り入れるなど、子供の食事への興味を持たせるような取り組みを行っています。	調理実習のレパートリーを広げたり、作るだけではなく食材の栄養や産地などより詳しく教えることでさらに興味を持ってもらう。
2	タブレットやパソコンを取り入れた活動をしている。	一日に使える時間を指定し、その中で自分がやりたい活動(調べ物やイラストの作成など)を行い、電子機器への苦手意識をなくし、自主的に使えるように指導しています。	だいぶタブレットやパソコンの操作に慣れてきているので、今後はタイピングを強化したり、利用児童の個々人の状況に応じてスキルアップできるような活動を増やしていきたい。
3	事業所内で部屋が分かれており、年齢や活動内容に応じて使い分けている。	全員がつかえる部屋(広場)、おやつを食べたり落ち着いて宿題などに取り組める食堂、静養室の他、2階に高学年以上を対象にしているパソコンルームや図書室をつくり、幅広い年齢層が一緒に過ごす中で出来るだけトラブルを発生させないように心掛けました。また、一般的な住宅を活用することでアットホームな安心感のある教室づくりを目指しています。	移転後、暫定的に決めていた物の配置やランドセル置き場、本棚などを見直し、より利用児童が使いやすいような教室づくりをしていきたい。部屋割り等に関しては、2階に高学年専用の部屋を設けることで低学年に苦手意識がある高学年との棲み分けも出来ているため、今後もこの方針で進めていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や他の機関との交流が少ない	自事業所のみで完結している活動やイベントが多く、外部との交流を兼ねた活動が少ないこと。	地域の方も参加できるようなイベントを考えたり、休日や祝祭日に行われている地域のイベントなどにも今後は積極的に参加することで、自治体協力のもと地域理解を広げていきたい。
2	利用児童の保護者同士の交流が少ない	菊池圏域では他の積極的に開催されている地域に比べ、保護者会などの開催があまりなく、前提として親同士の交流の場が少ないこと。また、当事業所での保護者も参加可能なイベントでは、仕事の都合等で参加が難しく毎回児童のみの参加となる家庭も少なくないこと。	今後は当事業所が主催として行う保護者参加型のイベントや父母の会を増やし、職員と保護者だけでなく、保護者同士の交流や情報交換ができる機会を増やしていきたい。
3			